

国際交流事業・国連本部訪問等平和旅行団

大館から全世界へ平和をアピール



市が国際交流事業の一環として主催した「国連本部訪問等平和旅行団」は、十月八日から十六日までの九日間の日程を終え、無事帰館しました。

富士市長を団長とした一行二十四人は、国連本部での非核・恒久平和を求める要望書の提出や勉強会、カリフォルニアの農場視察を行うなどの見聞を広めるとともに、秋田犬ロサンゼルス支部との交流を深めました。この体験を、団長のほか三名の団員にリポートしていただきましたので報告します。

肌で感じた米国

市長 島山 健治郎

この度、私たち二十四人の市民代表からなる「国連本部訪問等平和旅行団」は、その大任を果たし無事帰館しました。正式



な報告は団員のリポートを含め後日行いますが、概要について報告します。

まず国際連合の働きについては、その実績を肌で感じるところができましたし、その役割を正しく知っていたり、その必要性を強く感じました。特に今臨時国会で論議されている国連平和協力法案については、国連が望んでいる平和解決への手段として、自衛隊派遣を前提とした政府の考え方に大きな疑問をもったところです。

秋田犬保存会ロサンゼルス支部では、ヘレンケラー女史の遺志を継いで異国にて郷土の名犬をばぐくみ、幾多の困難を克服し大活躍しています。日米親善の媒体として、市も今までは違った協力をしていかなければなりません。



国連本部ビル

農場視察では、わが国の米作りにも問題や悩みがあるように、米国にもいろいろあることがわかりました。一番大きな問題は水の確保が難しいため、米の生産量が降水量により大きく左右されることでした。このような状況にある米国に、主食穀物を依存するようになることはいかに危険なことか、あらためて自給力を維持すること

の重大性を痛感させられました。米国の活力源は民主主義にありましたが、それは、多民族からなる国であるため、解放的で明るい討議から出発していることです。残念ながら日本は閉鎖的だとよく言われます。海に囲まれた単一民族ですからしかたのないことではしょうけれど、この閉鎖的部分からの改善が求められています。

国連を訪問して

大館まちづくり協議会

小笠原 渉

私は、市で主催した「国連本部訪問等平和旅行団」という長い名前の旅行団に参加させてい



比内町出身で国連事務次長の明石康氏(軍縮担当)を通じてデクエアル国連事務総長に提出した非核・恒久平和要望書

原爆の悲惨さを身をもって体験した世界で唯一の核被爆国日本。核兵器廃絶と恒久平和の実現は、全市(国)民共通の願いである。しかしながら核軍備の拡張は依然として行われ、すでに地球上には多くの核兵器が貯えられ、人類の生存に深刻な脅威を与えている。

我々は、世界唯一の核被爆国民として、今なお続く被爆者の苦しみを思うとき、再びこの地球上に広島、長崎の惨禍を繰り返さないことを、全世界の人々に訴える。

我々は恒久平和を求める立場からすべての核保有国に対し、核兵器廃絶を求めるとともに軍備の縮小を強く要望します。